

梅雨三観

詩曲 すずきこう

♩=52

つゆのあめは しずかに いつのまにか みえます
 つゆのあめは しずかに いつのまにか みえます
 つゆのあめは しずかに いつのまにか みえます

あじさいのは ぬらして かたつむりが つのをだす
 なえよはやく おおきく なーておくれ ねをはって
 だいちみずを ふくんで やまはみどり げんきです

あかやあおや むらさき あざやかです ほほえんで
 ときにかぜは やさしく いねのうみは なみうって
 ときにあめは おこると まちやたはたのみこんで

いまがわたしの 一みごろ かぜにゆれて いますよ
 ゆうひしずむ まえから かえるくんが うるさい
 しぜんこわす ひととは ともにやっ て いけません

三

梅雨のつゆは大地に
 静かに見えます
 梅雨のつゆは大地に
 静かに見えます
 梅雨のつゆは大地に
 静かに見えます

二

梅雨のつゆは大地に
 静かに見えます
 梅雨のつゆは大地に
 静かに見えます
 梅雨のつゆは大地に
 静かに見えます

一

梅雨のつゆは大地に
 静かに見えます
 梅雨のつゆは大地に
 静かに見えます
 梅雨のつゆは大地に
 静かに見えます

梅雨三観

詩曲 すずきこう